

雅楽の世界へようこそ

演奏：河原町雅韻会かわらまちがいんかい

平成30年12月2日（日） 13時15分開演（12時45分開場）

第1会場 能楽ホール

- ① 管絃 ひょうじょう 「平調音取」 ね とり 「越殿楽」 え てん らく
- ② 楽器紹介
- ③ 舞楽 げん じょう らく 「還城楽」

雅楽とは

日本の伝統芸術“雅楽”は、およそ1000年前、平安時代の中頃に完成した日本のも古い古典音楽です。雅楽は、その演奏形態、使われる楽器、演奏される曲目や歌、舞が、1000年余前からまったく変わっていないという、世界でも非常に珍しい音楽芸術で、世界最古のオーケストラともいわれ、くないちょうしきぶしょくがくぶ宮内庁式部職楽部の雅楽は、国の重要無形文化財に指定され、また2009年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。



雅楽演奏の様子

雅楽ができあがった経緯は、大きく分けて3つの流れがあります。1つ目は、日本に古くから伝わる日本独自の音楽、歌や舞が雅楽の元になっています。かぐらうた あずまあそび神楽歌、東遊

などの「^{くにぶりのうたまい}国風歌舞」です。これらは、天皇の即位や宮中の行事で行われるものが多く、ふだん私たちが目にすることはあまりありません。

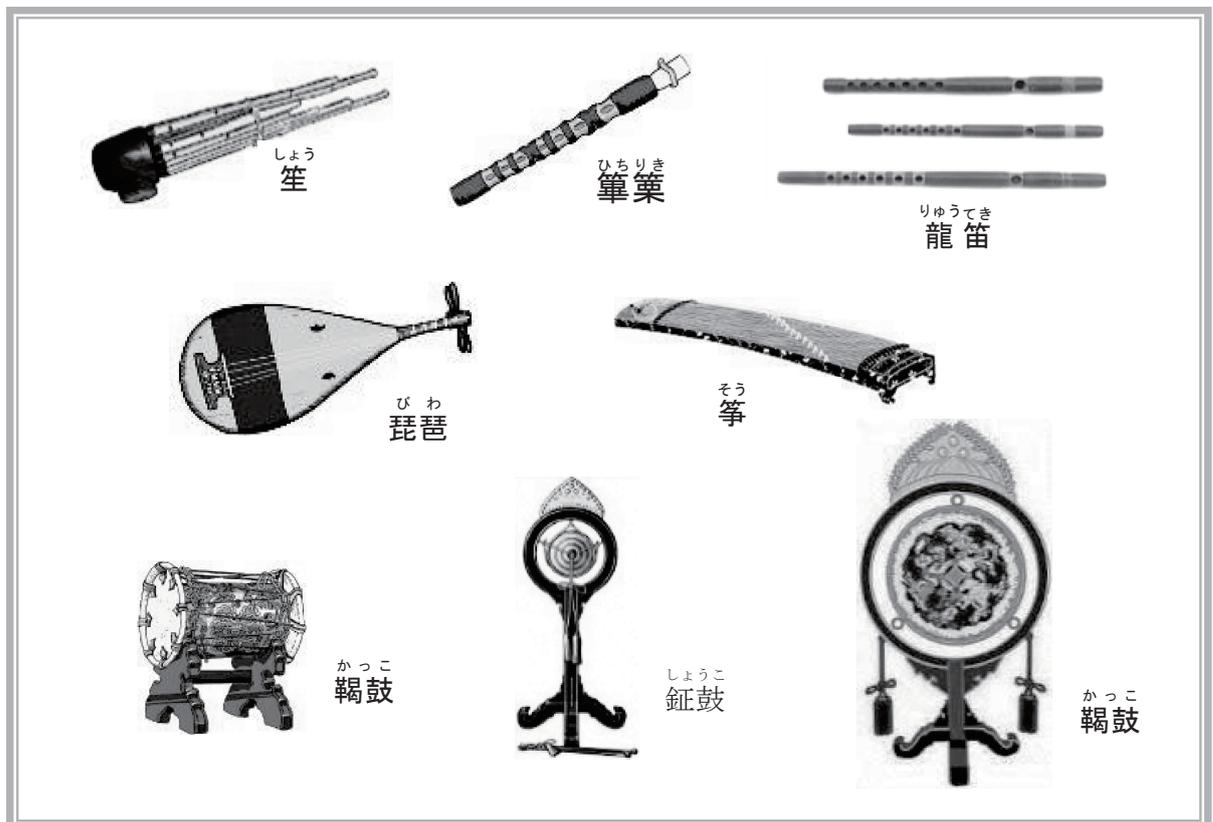
2つ目は、およそ1400年前頃からアジア大陸で生まれ育った音楽や舞が、シルクロードを経て、中国大陸あるいは朝鮮半島から伝わったものです。しかし、伝わったままの形ではなく、その後だんだんと日本人好みの音楽として日本化したものが雅楽になりました。中国、インド、ベトナムから伝わったものを「^{とうがく}唐楽」といい、朝鮮半島や中国東北地方から伝わったものを「^{こまがく}高麗楽」といいます。

そして3つ目は、アジア大陸から伝来してきたものの影響を受けて、日本で新しく作られた曲や歌、舞です。

雅楽は、この三つの流れで成り立っています。

また雅楽は、演奏形態によって「^{うたもの}歌物」「^{かんげん}管絃」「^{ぶがく}舞楽」と、大きく三つに分けることができます。管絃は、最も基本的な演奏形態で、「^{しょう}笙」「^{ひちりき}篳篥」「^{りゅうてき}龍笛」の三つの管楽器と「^{びわ}琵琶」「^{そう}箏」の二つの絃楽器、そして「^{かっこ}鞀鼓」「^{たいこ}太鼓」「^{しょうこ}鉦鼓」の三つの打楽器を用いて演奏します。

舞楽では、琵琶・箏の絃楽器は使いません。右方の舞楽では、鞀鼓に替えて「^{さんのつづみ}三ノ鼓」を uses。また高麗楽では、龍笛に替えて「^{こまぶえ}高麗笛」を uses。



雅楽の楽器

管絃 「平調音取」 「越殿楽」

雅楽には六つの調子があり、平調はそのうちの一つで、E音を基調とします。

「音取」は、演奏する各楽器の音律を整えると共に、旋律を知らせる短い曲で、次に演奏する楽曲の調子の雰囲気醸し出すものです。

「越殿楽」は、雅楽の中で最も名高く、ポピュラーな曲で、洋楽にも編曲されている曲です。「越殿楽」は、日本の平安時代中期（10世紀頃）に中国より伝わった曲で、三部形式の整った美しい旋律の曲で、四拍子で演奏します。

舞楽 「還城楽」

舞楽は、左方と右方の2種類に分けられます。

左方の舞楽は中国大陸から伝わった唐楽の曲や舞が元になっています。舞人は舞台の左手から入場し左手へと退場します。（*）

右方の舞楽は、朝鮮半島から伝わった高麗楽の曲や舞が主となりますが、なかには唐楽の曲を右方の舞楽として舞う曲が数曲あり、「還城楽」もその一つです。鞆鼓に換えて「三ノ鼓」を用い、舞人は舞台の右手から入場し右手へと退場します。（*）

「還城楽」は、左方の舞と右方の舞の二通りの舞がある珍しい曲ですが、本日は右方の「還城楽」を演奏します。

この曲は、中国の西の方に住む人が、蛇を好物として食べていたので、蛇を見つけて喜ぶ様子を舞にしたといわれています。

舞人は一人で、面をつけ、右手に赤い桴を持ちます。打物だけの「乱声」で舞人が登場し、笛の追吹のある「陵王乱声」のあと、舞の途中で「蛇持ち」がとぐろを巻いた作り物の蛇を舞台の中央に置きます。舞人は、この蛇を見つけて、飛び上がって喜びます。やがてその蛇を左手で取って舞い踊り、「還城楽音取」のあと、当曲の演奏となり、そして再び「乱声」で退場します。

（*）今回、会場の都合で左手よりの入退場となります

河原町雅韻会

河原町雅韻会は1921年（大正10年）に京都市に設立された雅楽団体で、天理教河原町大教会がその母体となっている。各地の小学校や中学校で演奏会を行うなど、雅楽を広めるために活動している。2009年には、日本とドイツの文化交流のためにドイツとオランダで演奏会を行い、2013年には、京都市とドイツケルン市の姉妹都市提携50周年記念事業に、京都市文化使節団として京都市長とともにドイツへ渡り、ケルン市役所での記念式典の演奏をはじめ、ドイツ各地で演奏会を行った。